

- 問1 北海道のオホーツク海沿岸で見られる流水と、その地域への影響について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 日本海の雪が海に流れ出て固まったもので、主に水田の灌漑用水として利用されている。 | 2. シベリア沿岸で生まれた氷が南下してくるもので、冬の重要な観光資源として活用されている。 | 3. 暖流の影響で海水が蒸発して氷になったもので、夏の冷害を引き起こす原因となっている。 | 4. 太平洋側から北上してくる大規模な氷山で、冬の間の船舶の往来をすべて止めている。 |
|---|--|--|--|
- 問2 北海道の県庁所在地である札幌市の気候の特徴を説明した文として、統計データに基づき正しく述べたものを次の中から選びなさい。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 1月の平均気温は5度前後であり、夏には梅雨の影響で雨が非常に多いが、冬は乾燥して晴天が続く。 | 2. 1年を通じて気温の変化が小さく、1月の平均気温も15度を上回り、夏に極めて多い降水量が見られる。 | 3. 夏は非常に高温になる一方で、冬の降水量が極端に少なく、年間降水量が1000mmを下回る乾燥した気候である。 | 4. 1月の平均気温が氷点下の約マイナス5度まで下がり、年間の降水量は各月100mmから150mm程度で推移する。 |
|---|---|--|---|
- 問3 かつての北海道中央部に広がる平野で見られた、低温のために枯れた植物が十分に分解されないまま積み重なってできた、排水の悪い湿地帯を何と呼びますか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|--------|--------|
| 1. カルスト地形 | 2. シラス台地 | 3. 干拓地 | 4. 泥炭地 |
|-----------|----------|--------|--------|
- 問4 日本の各地域における農業産出額の内訳を比較すると、北海道は東北地方などと比較して「畜産」が占める割合が非常に大きいという特徴があります。北海道において、特に根釧台地などを中心に大規模な畜産業が発達した背景として最も適切なものはどれですか。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 急峻な山地が多く機械化が困難なため、人の手による労働集約的な飼育が伝統的に行われてきたため | 2. 温暖な気候を利用して、一年に二度同じ土地で稲を栽培する二期作を行うよりも効率良かったため | 3. 大消費地である東京に隣接しており、新鮮な果物や野菜を毎日トラックで即座に出荷できる立地条件であったため | 4. 広大な土地を活用した大規模経営が可能であり、冷涼な気候が稲作よりも乳牛の飼育に適していたため |
|--|---|--|---|
- 問5 北海道の釧路市周辺では、夏の時期に「海霧」と呼ばれる濃霧が発生し、日照時間が短くなるという気候上の特徴が見られます。このような現象が起こる背景として、地形や海流の影響を説明したものととして最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. オホーツク海高気圧から吹き出す冷涼な風が、大雪山系を越える際に上昇気流を作るため。 | 2. 南東からの湿った季節風が、寒流である千島海流（親潮）の上を通る際に冷やされるため。 | 3. 北西からの乾燥した季節風が、暖流である日本海流（黒潮）の影響で湿気を帯びるため。 | 4. 熱帯低気圧から変わった温帯低気圧が、太平洋沿岸の暖流によって勢力を強めるため。 |
|--|--|---|--|
- 問6 北海道において、スマート農業が他地域に先駆けて積極的に推進されている理由を、土地利用の状況と社会的な背景から考察した説明として最も適切なものはどれですか。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 高齢者の割合が全国で最も低く、新しい技術を操作できる若者が過剰に存在するため | 2. 山間部が多く機械の導入が困難なため、ICTによる遠隔操作が唯一の手段であるため | 3. 広大な経営面積に対して従事者が不足しており、省力化の必要性が極めて高いため | 4. 小規模な農地が密集しているため、ドローンを使わなければ肥料が隣地に飛散するため |
|---|--|--|--|
- 問7 北海道の地理的特徴や自然環境について述べた次の文のうち、知床半島に関連する記述として正しいものはどれか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 亜熱帯の気候に属し、独自の進化を遂げた固有種が多く生息することから、小笠原諸島とともに世界自然遺産に選ばれている。 | 2. 親潮（寒流）の影響を強く受けるため、夏季には季節風が温められて上昇し、年間を通して降水量が非常に多い地域である。 | 3. 流水が接岸する北限の地として知られ、広大な泥炭地が広がることから、全域が世界文化遺産に登録されている。 | 4. 世界自然遺産に登録されており、海と陸の生態系のつながりが保たれているほか、周辺にはラムサール条約登録湿原もみられる。 |
|--|---|--|---|
- 問8 北海道の石狩平野などは、かつて農耕に不向きな土地でしたが、現在では日本有数の稲作地帯となっています。このような発展を可能にした土地改良の背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 火山灰が厚く堆積して水持ちが悪い台地を改良するため、大規模な水路が建設された。 | 2. 植物の遺体が堆積した排水の悪い湿地を改良するため、排水路の整備や客土が行われた。 | 3. 海岸沿いの浅瀬に堤防を築いて海水を抜き、塩害に強い新たな耕地を造成した。 | 4. 急傾斜地を階段状に削り、地滑りを防ぎながら標高の高い場所でも耕作を可能にした。 |
|--|---|---|--|
- 問9 2001年から2018年にかけての北海道の酪農に関する統計では、飼育戸数が9640戸から6140戸へと大幅に減少する一方で、生乳生産量は3640.7千から3965.2千へと増加しています。また、100頭以上の牛を飼育する戸数や搾乳ロボットの導入数も大きく伸びています。このような北海道の酪農で見られる変化の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 環境保護の観点から機械の使用を制限し、1戸あたりの飼育頭数を減らす取り組みが進んでいる。 | 2. 飼育戸数の減少に比例して全体の生産量も減少し、酪農から畑作への転換が進んでいる。 | 3. 乳製品の需要低下に合わせ、手作業を中心とした小規模な家族経営への転換が進んでいる。 | 4. 労働力不足を補うために、経営規模の拡大や搾乳ロボットの導入による機械化が進んでいる。 |
|---|---|--|---|
- 問10 北海道地方と九州地方の工業出荷額の内訳を比較した際、北海道では製造品出荷額のうち食品工業が占める割合が最も高いのに対し、九州地方では自動車などの機械工業の割合が高いという特徴が見られます。北海道において、特に食品工業の割合が高くなっている理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 海外から輸入した石油などの原料を加工する臨海型の工業地帯が全国的に見て集中しているため | 2. 広大な土地を活用して生産される農産物を原料として、現地で加工を行う工場が多いため | 3. 豊富な森林資源を背景として、住宅用の木材や製紙・パルプの製造が製造品出荷額の半分以上を占めているため | 4. 最先端の技術を必要とする集積回路（IC）の工場が、空港や高速道路周辺に数多く建設されたため |
|--|---|---|--|
- 問11 北海道の農業は、広大な十勝平野などを中心に日本の食料自給に大きく貢献していますが、人口に占める農業従事者の割合は全国平均よりも低いという特徴があります。このような数値が表れる背景にある、北海道の農業の仕組みとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 兵庫県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 1戸あたりの経営面積が広く、大型機械を活用した大規模な農業が行われているため | 2. 農地の多くが牧場として利用されており、農作物を作る従事者が不足しているため | 3. 冷涼な気候を活かした稲作が中心であり、冬の間の就業人口が極端に少なくなるため | 4. 都市近郊での施設園芸が中心であり、限られた土地で少人数の家族労働が行われているため |
|---|--|---|--|